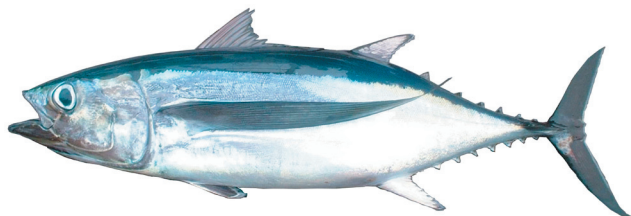


ビンナガ 南太平洋

Albacore, *Thunnus alalunga*



管理・関係機関

中西部太平洋まぐろ類委員会 (WCPFC)
太平洋共同体事務局 (SPC)

最近一年間の動き

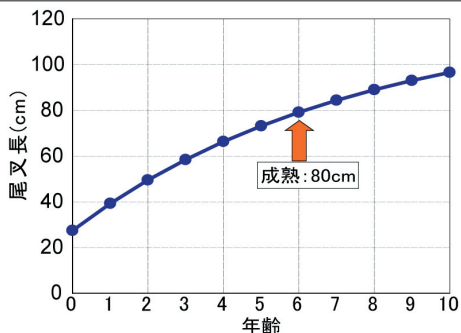
2006年の漁獲量は6.8万トンとなり、これまでで最も多かった。2008年8月のWCPFC科学委員会第4回会合では資源評価が行われた。今回の解析では資源やMSYは前回よりも低くなった。解析には依然として多くの不確実性があり(親子関係、成長式、CPUEの向上の程度、自然死亡係数、過去の体長組成の変化の有無、体長データの有効サンプル数、計算開始年)、これらについて検討が行われた。

生物学的特性

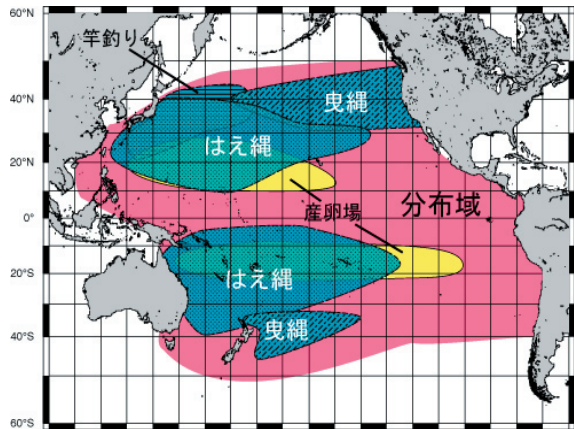
- 寿命：12歳以上
- 成熟開始年齢：5歳
- 産卵期・産卵場：10～2月(南半球の春・夏季)
中・西部熱帯～亜熱帯海域
- 索餌場：南緯25～45度
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者：まぐろ・かじき類、さめ類、海産哺乳類

利用・用途

缶詰原料など



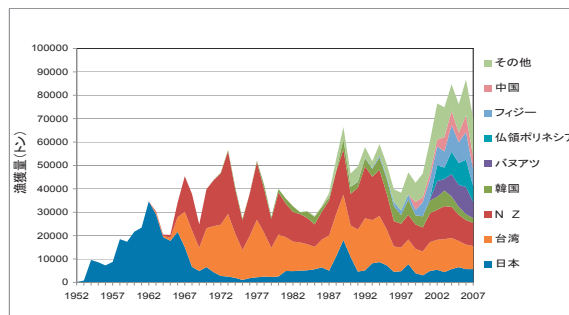
脊椎骨の輪紋数から推定した南太平洋のビンナガの年齢と体長の関係



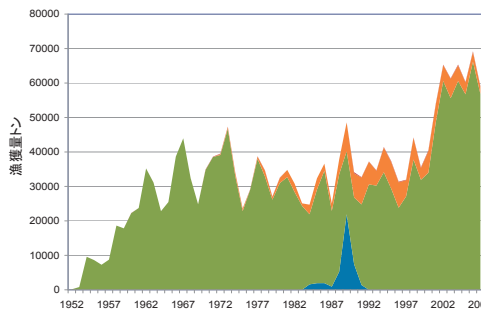
南太平洋ビンナガの分布域と主な漁場

漁業の特徴

主な漁業は、遠洋漁業国(日本、中国、台湾、韓国)や島嶼国(フィジー・仏領ポリネシア・米領サモア・サモア等)のはえ縄、ニュージーランド沖・亜熱帯収束域(南緯40度付近)のひき縄(ニュージーランド・米国)で、竿釣りの漁獲は僅かである。近年は遠洋漁業国のはえ縄の漁獲が減少し、島嶼国のはえ縄の漁獲が増加傾向にある。はえ縄以外では、ニュージーランドのひき縄の漁獲が最も多い。遠洋漁業国の大規模流し網漁業は、1983年頃に始まり1991年を最後に消滅した。



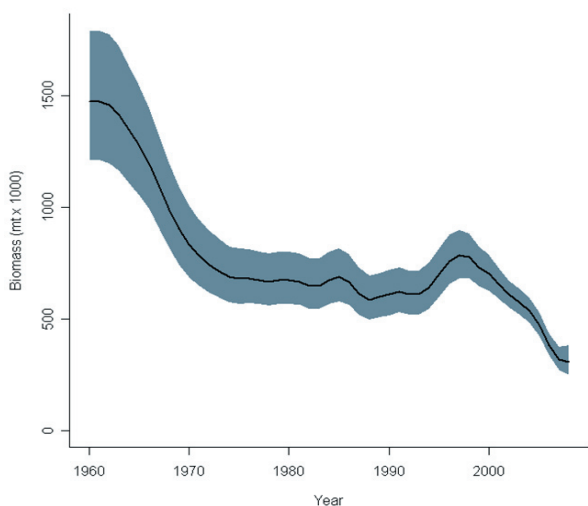
南太平洋ビンナガ国別漁獲量



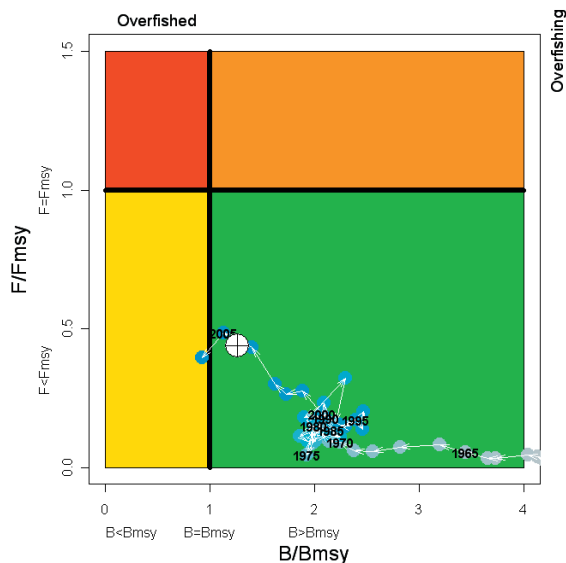
南太平洋ビンナガ漁法別漁獲量

漁業資源の動向

1950年代初めから漁獲が始まり、1960年代までの漁業国は日本、韓国、台湾であった。年間の総漁獲量は1960～2004年で2.2～6.3万トン、2000～2006年は4.0～6.8万トンで、過去最高水準である。漁獲量では2006年にフィジーやバヌアツが台湾の漁獲量を上回り、1万トンを超えている。



南太平洋ビンナガの総資源量推定値



南太平洋ビンナガに関する過去の F と資源量の MSY に対する相対位置の経年変化

資源状態

2008年にMULTIFAN-CLによって実施された資源評価によると、前回の資源評価よりも資源量やMSYは小さく推定された。2007年の資源量は40万トン以下となり、1990年代後半からの減少傾向が続いている。しかしながら、推定されたFはMSYレベル以下であり、資源量もMSYレベル以上にあることが示され、乱獲や過剰漁獲にはなっていないと判断された。

管理方策

今回の資源評価により資源量推定値やMSYは前回の推定値より低く推定され、より現実に近いものとなったと考えられる。現状のFや漁獲量は過剰にはなっていないと判断された。

資源評価まとめ

- 現在の漁獲が資源量の変化に及ぼす影響は20%程度
- 評価には不確実性があるが、現在の資源量はMSYレベル以上にあると考えられる。しかし、近年大型魚へのFが増大している

資源管理方策まとめ

本資源の持続性に関する不確実性が依然として残っていることと、親魚に対する現在の高いFを考慮して、第4回科学委員会は漁獲量を現状に留めることを勧告した。

ビンナガ(南太平洋)の資源の現況(要約表)

資源水準	高位
資源動向	減少
世界の漁獲量 (最近5年間)	6.1～6.8万トン 平均：6.4万トン
我が国の漁獲量 (最近5年間)	4.3～7.1千トン 平均：5.9千トン